

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1473200325
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
訪問調査日	平成21年3月13日
評価確定日	平成21年4月1日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473200325号
法人名	社会福祉法人 幸済会
事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
所在地	横浜市旭区西川島町127-1 (電話) 045-372-5086

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 10日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 16日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	11人	常勤 4人	非常勤 7人	常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	237,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,050 円			

(4) 利用者の概要 (2月10日 現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2		要介護3	1名
要介護3	2名	要介護4		要介護5	2名
要介護5	2名	要支援2			名
年齢	平均 75.6 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東川島診療所 牧野記念病院 遠藤歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相鉄線鶴ヶ峰駅よりバスでおよそ3分の所にあります。特徴的な点として、「毎月の支払いは家族来園による」としていることが挙げられます。すべての利用者家族が必ず月1回は来園して、利用者と接し、状態確認をしています。また、経営母体法人理事長が医師であるため、在宅医療や緊急時訪問診察、通院付添いなどが可能です。同法人による職員研修も毎週のように行うなど職員育成にも努めている他、非常時の協力なども可能になっています。近隣町内会や団地・小学校等地域との関係づくりもできています。新しい若い管理者に変わりましたが、職員と一丸となって理念・モットーの実現に励んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は 地域密着を表す理念の検討 社外研修機会の増大 鍵をかけないケア リビング接客空間への仕切りが改善課題でしたが、 を除いては検討の上改善されています。 については様々な検討を行っていますが最善策をさらに模索していく状況です。家族来園時には利用者居室を利用するような対策も行っています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者交代があり、新管理者が真剣に自己評価を行っています。今後は職員にも自己評価に参加していただくことがホーム運営に資すると考えます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回の頻度で開催が義務づけられています。ホームの活動報告と町内会行事などが主な議題となっています。会議のマンネリ化を招かないように、今後はホームと地域との連携ができることについてのアイデア出しによる新規テーマの検討が期待されます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月来園の際にいただく意見・要望での対応を中心としています。苦情窓口を設置していますが、苦情としてはほとんど出ていない現状です。苦情が出た場合の対応方法は定めています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、お祭り、運動会、正月の獅子舞いへの参加を行っています。近隣小学校の鑑賞会、運動会にも引き続き参加しています。今後も付き合いを深め大切にしていこう意向です。近接団地は別の地区に属しますが、防災訓練参加などで協力関係を築いています。同様に近接小学校とも小学校行事への参加などで親しくなっており、小学生などが朝の挨拶などをしていく関係です。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」過ごすことを理念とし、「その人のできる力の発揮」をケアの重点、「暖かい心、冷たい頭、すぐれた技能」をモットーとしています。20年度からは新たに地域での生活を楽しんでいただくこともモットーに加えています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に大書して理念と毎年のケア方針を掲示し、共有しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭り、運動会、正月の獅子舞への参加を行っています。近隣小学校の鑑賞会、運動会にも引き続き参加しています。今後も付き合いを深め大切にしていく意向です。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善事項については、検討の上改善に取り組んでいます。外部評価の意義について職員にも説明をしています。評価結果は玄関ホールにいつでも閲覧できるように備えられています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で開催しています。町内会の会長と青年指導員、ケアプラザ所長、利用者家族、職員が参加しています。ホームの活動報告の他、町内会からの行事の話などが議題ですが、ホームとして地域で手伝えることはないか、話題として上げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前年までケアプラザ主催の「支え合い連絡会」の構成員として直接ボランティア団体や民生委員と接触していましたが、同一法人の他ホームに構成員を交代しましたので、現在は区のグループホーム連絡会に参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ご利用者の様子をお便りとして出納帳と通帳コピーとともに郵送しています。月々の支払いは必ず家族の方が「来園して支払う」としているため、来園時にも様子を報告したり、行事の写真を見ていただいたりしています。職員の様子や職員の異動はお便りで伝えていきます。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月来園の際にいただく意見の他、苦情窓口を設置していますが、苦情としてはほとんど出ていない現状です。		玄関入り口横壁には苦情窓口を示すポスターが貼ってありますが、例えばご意見箱を設置し、記入用紙・記入用具と備えておくなど、貴重な意見の収集の機会増大につながる工夫の検討が期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動(定期的場合も含む)や退職は避けられない社会環境があり、実際ありますが、家族と利用者の方には説明し、不安が生じないよう努めています。異動の際は慎重に検討を行っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修においては年間研修計画をつくり、常勤・非常勤を問わず参加するようにしています。昨年までは月2回でしたが、今年度からは月4回とし、各事業所からテーマを出して担当者を決めて発表する方法をとっています。社外研修にも参加機会を増やしています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人他グループホームとの交流の他、区のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っています。今後は近隣グループホームとの交流機会を増やしたいとの意向を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には出来るだけ回数を多く来てもらい、食事、レクリエーション等と一緒に参加してもらいながら、少しずつ馴れてもらっています。また職員とも多く接触するよう心がけています。利用開始の時期は家族と相談しながら決めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>事業所の理念に「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」過ごすこと、とあるように、行事などは利用者の希望をとりいれ、職員も一緒に参加し楽しんでいます。また編物や雑巾作りは利用者から職員が教えてもらいながら、一緒にしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望を聞いて、ケアプラン作りをしています。本人が意思表示が困難な場合には、毎月家族が来ますので、家族から意向を聞いたり、担当の職員の意見を聞いたりして、ケアプランに反映しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員を中心に管理者、介護職員が参加してケアカンファレンスを開催し、介護計画についての話し合いを行ない介護計画を作成しています。家族からの意見は予め電話で聞いておきます。</p>		<p>ケアカンファレンスに出席可能な家族にも参加してもらい、介護計画についての話し合いをすることも期待されます。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に、再アセスメント、ケアカンファレンスを行ない、介護計画の見直しをしています。治療が必要になった場合等状態が変化した場合には主治医や家族と話し合いを持ち、早急に介護計画の見直しをしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスのレクリエーション、体操に希望する利用者は参加しています。またデイサービスと合同のクリスマス会、夏祭り等を開催しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師であるため、全員の健康管理を行なっていて、かかりつけ医にもなっています。月1回の定期受診も職員付き添いで行なっていて、毎日身体、精神状況報告書をファックスし、必要時指示をもらっています。月2回看護師の訪問があり、必要時往診もしてもらえる体制になっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ターミナルの状態の利用者はいませんが、重度化した場合やターミナルになった場合の選択肢は主治医、本人、家族と話し合いをして決めてもらっています。ホームでもターミナルケアが可能のように、24時間緊急時かかりつけ医と連絡できる体制となっています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応が馴れ合いにならないようホームの中で勉強会を開いて注意をしています。個人の記録やファイルは事務所の鍵のかかる書庫に保管しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日利用者の希望に添ったすごし方をしています。リビングでゲームをしている利用者、掃除をしている利用者等本人のしたいことを職員が見守りながら過ごしている様子が見られました。また買物に行きたい利用者には職員が付き添い、希望の買物が出来るよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンではデイサービスの食事と一緒に作っているため、職員が主となって食事作りをしています。利用者が一緒に作ることは殆どありませんが、手作りの献立表と一緒に作ったり、配膳、テーブル拭き、食器洗いなども利用者と共にしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めてはいませんが、1日おきの昼間帯に希望に添って入浴してもらっています。希望しない利用者にも声かけや介助を工夫し、週2回は入浴してもらっています。入浴チェック表に記入して把握しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、洗濯たたみ、掃除等出来ることはしてもらっています。ケアプランの中に本人の出来ることから、役割や楽しみをとり入れるようにしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園があるので、希望があれば散歩に毎日でも出かけています。また近くのスーパーにも買物と一緒にいたりしています。その他、月1回の外出レクリエーションには全員で出かけています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価実施時には玄関が施錠されていましたが、今は日中は施錠しないで、夜間のみ防犯上施錠しています。玄関の扉の開け、閉めの時、音が鳴などの工夫をされると、出入りが確認しやすくなると思われます。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っています。近接団地の防災訓練にも参加し、防災協力関係をつくっています。非常食は徒歩圏内にある法人他事業所に共同で備蓄し、いつでも持ち込める状態です。		夜間時の避難を地域との協力で可能にするよう町内会や近隣団地と話し合いを持たれるよう期待されます。また進めているスプリンクラー設置方法や費用負担方法などについて専門家との協議により決定し、早期実現を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材、メニューは委託業者から届けられます。食札をつくり、個人の食事形態、嗜好などを記入し、刻み食、代替食等の対応をしています。食事摂取表、水分摂取表に記入し摂取状況を把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・食堂、居間が大きな吹き抜けとなっていて若干音の響きやすいこともあるようですが、とても開放感があります。居間には畳敷き床もあり食事時にも利用されています。昨年にくらべ、四季行われる行事の写真をたくさん掲示し、利用者及び家族来園時での楽しい雰囲気演出しています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼットを含めず6畳あり、広々しています。家具調度すべて持ち込みとしているため、使い慣れたもので利用者の生活に合わせて構成されています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム 三幸の園
(ユニット名)	三幸の園
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市旭区西川島町127-1
記入者名 (管理者)	金子 隆司
記入日	平成21年 4月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	三幸の園では「その方のできる力の発揮」にケアの重要な視点をおき、今出来る力や能力を生活に用い、生きがいや役割を持ち生活して頂ける環境を大切にしている。また、地域に密着した生活の中で行事等の交流を行う事で地域での生活を楽しく頂く。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に大きく理念を掲げ、どの職員にも分かりやすい言葉で表現し共有しあう。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては毎月のお便りの中に事業所の日常の取り組みや、ご利用者の力の発揮をお知らせする。また、ケアプラン更新の際にも同様に説明を行う。運営推進会議においてもご利用者の皆様の力の発揮を定期的にご覧頂き、地域・各関係機関の皆様へご理解頂く。	運営推進会議は、ご利用者がいらっしゃるリビングで行い、入居者や職員の日常の様子をご覧頂いている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣には小学校があり、定期的な交流を行っている。また、この定期手な交流を継続していることより、休日には子供たちが自らお年よりに会いに来ることが増え、顔見知りとなり、日頃の散歩の際にも声をかけて頂く事が多くなった。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域の行事への招待も多く頂いている。また、近隣の小学校においてもたくさんの行事への招待と同時に足を運んで頂く機械も多くもっている。	町内会のお祭り、運動会、正月の獅子舞への参加。小学校行事(鑑賞会、運動会、お祭りなど)年間を通し多くの交流機会を今後も大切にしてい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、町内会長より町の現状を聞く機会が増え、とても参考になる。取り組みに関しては今後積極的に検討・実施していきたい。		前回の外部評価の後に事業所として地域に貢献できる事を模索しているが、現状は、形になったものはない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価にて要改善の必要があるものに対し、申し送り簿を通し、職員へ周知している。またその意義に関しても理解を深めるよう職員会議にて説明を行なっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催し、各構成員より評価を頂く事としている。頂いた意見や必要な改善策等にびては、職員が日頃より目が通せるようファイルしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以前は近隣のケアプラザの「支えあい連絡会」の構成員として参加していたが現状は、今は同一法人近隣の他事業所が参加する事となり、現状は、区レベルのグループホーム連絡に参加しているのみとなった。		以前に比べると地域の細かな情報がダイレクトに入って来ない環境になってしまっているが、必要情報について、参加事業所により情報を提供してもらっている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居されている方には身寄りが無い方もいる為その方については安心センター職員との連絡相談の機会を作っている。また、現在成年後見人制度の申請を行っている方もいる。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より第三者からも誤解される対応をとらないよう呼びかけ又職員同士で気をつけあう環境づくりをおこなっている。またポスター等で啓発をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分な時間を頂き、不明な点等がないかその都度確認する事としている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の方からの不満等については職員より迅速に報告を受け、適切に対処するよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族へは毎月ご利用者の様子(お便り)、出納帳・通帳のコピーを郵送している。また、職員の様子についても、写真を玄関に掲示、入退職もお便りでお知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口(施設内外)を玄関に掲示している。</p>	<p>窓口を掲示しているが、言い易い環境を整えているとは言えず、家族がより意見を言い易い取り組みを考えたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議(同時に勉強会)を定期的に設け、職員がケアに対する意見や提案が出来る機会を設けている。</p>	<p>定期的な会議を設けているが、意見を言う職員が決まって来ている為、今後は全ての職員が意見を言える環境を整えたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務に関しては、事業所及びスタッフのそれぞれの都合より、ご利用者にご迷惑のかからないよう調整・確保に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所においては、顔なじみの関係の構築を重要と考え、異動の検討の際は、慎重に行うこととしている。</p>	<p>離職が生じる際は、事業所より家族、ご利用者様に説明し、不安を最小限にとどめるよう努めることとしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修においては、年間計画を作成し、常勤・非常勤を問わず参加できるよう努めている。時間においても勤務に支障の無い時間にて実施している。		施設外研修参加の確保が充分でなく、機会を増やす努力をしていきたいと言う前回の反省点を生かして今年度から、少しずつではあるが、社外研修に参加できるように努力をしている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH連絡会を通し、他事業所の方との交流の場を設けている。		町内にはグループホームが多くあり、身近な地域でどのようなケアの特徴や課題があるか、情報を共有できる機会を作りたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人では慰安旅行や懇親会など、職員同士が勤務外の時間において交流できる機会を年間を通し設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は毎日理事長(運営者)への報告を行い、入居者や職員の状況を把握しており、必要に応じ適切な助言を頂いている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、見学についてはご本人に来ていただけるよう促し、不安や意見を言い易いよう対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の相談においては必要に応じ面接、電話等にて行っており、信頼してお話しいただけるよう努めている。		

項 目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じてケアマネージャーと相談し、本人に適切なサービスが何であるのか、また、いくつかの選択肢を家族に示しながら対応している。	
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や相談の際は、本人に他の利用者と一緒に食事や散歩等に参加して頂き、帰宅後も利用開始のタイミングについて、ご家族等と相談している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の理念より、出来ることは本人で行って頂き、出来た際や、出来なかった際にも互いに声をかけあいながら、共に共感することとしている。	
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃より家族と様々な会話のできる距離と保ち、年間行事に家族との交流会(パーベキュー、誕生日会、敬老会)を設けている。また利用料の支払い等で月に一回はご利用者様と顔を合わせて頂くようにする事で、家族と一緒にの理念でケアする意識を共有する。	
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会等の際は共用空間とは別の場に本人、家族の居場所(お茶を飲める場等)をすすめ、落ち着いた雰囲気の中で過ごせる時間を提供する。	前回の目標としている仕切りについては、現在検討中である。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ面会を促すと共に、外出や外泊の依頼、住んでいた地域の近所の方々への面会も家族を通じて依頼している。	
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合うご利用者が近くにいるよう座席配慮を行う。	利用者同士の人間関係の構築にもう少し力を入れたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等により退所されたご利用者に対しても、退院後ご連絡を頂くものとし、各関係機関と密に連絡をとり、ご本人・家族を支援している。		同一法人の事業所に入所された際は、面会をおこなったりしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの評価・再検討の際は必ず都度アセスメントを行ない、現在の本人の意向や希望を聞いている。困難者に対しても職員がご本人の立場になり意見する事としている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の生活ペースを尊重し、一体的なケアを行わないよう周知している。また、職員はご利用者をよく把握する目的より、入職後の参照資料として、各ご利用者の生活背景、趣味等(面接記録)を閲覧するよう指導している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各ご利用者のケース記録にはケアプランの処遇実施の記載のみならず、些細な体調の変化や、気になる言動等を記載し、全職員が閲覧する仕組みになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員中心に職員とケアカンファレンスをおこなっているが、家族の意見は電話等で伺う等の実態である。		職員以上にご利用者を良く知る家族の意見の収集の方法に必要に応じカンファレンス参加等の工夫も必要である。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員にて対応が困難な事態が生じた際は、家族に来所頂き、都度話し合いをし、ケアプランに変更が必要な場合は早急に対応している。		必要により主治医からのムンテラも調整している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化等は必ずケース記録に記載し、プランの見直しが必要と認められる際は、別に状態を考察する表の記載を職員へ依頼し、見直しの参考にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事等において刻み、ミキサー、とろみの使用や苦手なものに対しては代替等の提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校と定期的な交流を持ち、招待状などは直接ご利用者へ手渡しして頂き、ご利用者が地域に住んでいる実感を感じて頂いている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所との連携は少ないが、ご利用者様からの意向や、必要性が高い場合は、支援を行って行く。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他の事業所との連携は現在多くなく、今後運営推進会議の構成員(地域包括支援センター職員)と交流を深めていきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長は医師であり、日頃よりご利用者の健康管理を行っており、ご本人及びご家族に充分説明をしながら必要に応じ地域医療と連携(入院等)をとり対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の記録やファイルは事務所の書庫に保管している。言葉使いにおいては職員同士で気をつけ、必要であれば適切な言葉使いを情報提供しあっている。</p>	<p>馴れ合いの言葉使いが見慣れている。ご利用者への声掛けのみならず、職員同士の言葉使いにおいても日頃より誤解を受けないように注意するまた、言葉使いについての法人の研修にも参加している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>時間やマニュアルに流され介護するのではなく、必ず声掛けを行ない、理解いただいた上で行動に移すこととしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務をこなすことを優先せず、本人の力やペースを尊重し、過度な介助は行わないよう申し送り、対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>髪のリカット等は近所の美容院を予約し、カット、パーマ、毛染めなど本人の意向を伺い、おしゃれを楽しんで頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立表を手作りで作成し、リビングにて皆様にご覧いただけるようにしている。苦手な献立に対しては代替の食品を提供している。仕度は現在職員が主となり、ご利用者が台所に入る機会が減少している。</p>	<p>食事の配膳、下膳の際は、皆様へお知らせし、ご自分で出来る方には行って頂いている。支度についても出来る方については手伝って頂いている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>共用冷蔵庫は個人でも使用して頂いており、買い物の際に購入した食品を食事の際自由に召し上がって頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄(声掛け・誘導)状況にあわせ行っている。オムツの使用が頻回な方についても、ケースカンファレンス等にて協議し、夜間のみ使用にするなど職員側にて意識し対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴して頂けるよう取り組んでいるが、希望されない方においては無理せず対応している。希望されない方が多くいらつっしゃるので、声掛けや介助に工夫し、喜んで頂けるよう取り組んでいるが、中々入浴をして頂けず、3日以上に一回のペースの方もいる。		入浴を楽しく喜んで頂けるような工夫を模索していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は安眠を優先し、排泄回数等も個々に決め行っている。昼間に休息が必要な方においても声掛けを行い、個々に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランの中では役割や楽しみを重視し、援助内容を考えている。ご利用者のできる事の中より役割や楽しみに結びつけ必要とされている実感を感じていただけるような声掛けを行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できるご利用者はご自分の希望で買い物ができている。できないご利用者には出来る限り一緒に買い物に行き、選択して頂ける様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は防犯上の理由より施錠されている。ご利用者が外出を希望している際等はその時点にて職員も一緒に出るようにしている。		日中は、施錠はせずにいるが、夜間のは施錠は、解消に至っていいない為に夜間の開放についても検討していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクリエーション(年間計画)を作り、四季折々楽しめるよう支援している。参加についてはご家族や本人の希望を伺い実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者も自由に使用できる事となっているが、出来る方が限定されており、事業所としての工夫や取り組みは現状ない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず、いつでもお会いにきて頂ける事となっている。面会場所は居室やリビングとなっている。		前回の仕切りについては、現在検討中である。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料、マニュアルを作成し、職員に周知している。必要と感じた際においてはカンファレンスにて代替方法がないかなど職員同士で考え意見を出し合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由より施錠されているが、職員は施錠が拘束であることも感じている。ご利用者に起こりうる弊害を充分理解した介護が必要と思われる。		日中は、施錠はせずにいるが、夜間のは施錠は、解消に至っていない為に夜間の開放についても検討していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	お一人で外出してしまう傾向のあるご利用者については必要な声掛けを行い、過剰な観察になりすぎないように心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの力に合わせ所持品等を検討している。安全管理の重要性と能力の維持双方の説明を職員に行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる事故における検討や防止策について職員内部研修を取り入れている。また、法人の勉強会を定期的開催し、常勤、非常勤問わず参加できるものとしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回、常勤、非常勤全員普通救命講習を受講している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要に応じ、嘱託医より家族説明を行い、家族及び職員が起こり得るリスクに対し情報を共有している。		法人の勉強会でリスクマネジメントの研修を行っており参加している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者は毎日理事長(運営者)への報告を行い、入居者や職員の状況を把握しており、必要に応じ適切な助言を頂いている。職員は毎日嘱託医にご利用者の一日の様子についてFAXにて報告し、必要に応じ指示を頂いている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてファイルを作り一人ひとりがどのような効能の薬を内服しているか確認出来る様になっている。また、服薬の方法として誤薬が無いよう薬箱、チェック表を作成し、二人で確認している。		法人主催の服薬事故についての研修会にも参加している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を記入しそれぞれのパターンを把握している。また、便困になら無いよう水分摂取表にて必要な水分の提供を図り、必要に応じ嘱託医の指示のもと下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自身での口腔ケアが困難な方に口腔ケアチェック表を記入し食後に口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表を記入し、各ご利用者の摂取状況を把握している。またそれぞれ食札を作り注意事項等を記載している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症ファイルがあり職員が閲覧できるようになっている。市や区の主催する食品衛生講習参加の他、法人にて保健所より職員を招き常勤非常勤問わず参加できる講習会を年1回行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は殺菌庫を使用し、衛生に努めている。台所で調理する職員には専用のエプロン、三角巾を義務づけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には造花や金魚の水槽を置き家庭的な雰囲気作りに努めている。また、ご利用者の日常や外出時の写真を数多く貼り、ご覧いただけるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す手作りカレンダーや写真を飾っている。台所は専用機材が入っており広いスペースになっており物音も大きくなっている現状であり、職員には音の配慮を掲示物にて呼びかけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に面会もできる空間を作ったが、仕切り等が無いため今後仕切りを置くなどの工夫をしていきたい。		職員にて温かい雰囲気の仕切りを検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の物品に関してはご利用者の愛着のあるものを家族へ依頼しており、カーテンから布団や棚の全てを持ち込みとしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンは集中管理になっており職員が調整するものとなっている。朝は夜勤者にて全居室窓を開放し空気の入替えを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角がなく開放的な空間となっているが手すり等が少なく必要な場所に後付けしている現状である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は一日の日課についてゆっくり分かり易く説明している。行事やお誕生月もリビングに大きく掲示し見ていただけるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室及びリビングより直接外に出られる工夫ができていない。庭には畑や花壇、ベンチを設け散歩や目で楽しめるように取り組んでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

定期的な外出レク、行事は盛んに行っており、また月2回の法人の勉強会から週1回へと増え職員の技術向上にも以前よりさらに力をいれている。